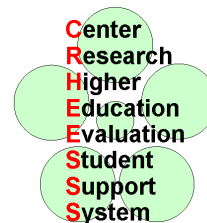


週刊センターニュース No.323



第323号(2010年9月10日)金曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

〇〇〇 2010年度第2回FD研究会開催のご案内 〇〇〇

主催: 大学教育開発・支援センター

日時: 9月16日(木) 15時~17時

※開催日時にご注意下さいますようお願い致します。

場所: 角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室

テーマ: グループワークを設計する

企画・報告者: 青野 透 (大学教育開発・支援センター 教育支援システム研究部門)

趣旨: 多人数授業でも設計次第で双方向あるいは多方向の意見交換は可能である。50人~100人くらいまでの科目で実施可能なグループワークの方法を紹介する。15回の授業で1回行うだけでも、学生たちの教室での構えが変化しうる。授業展開にメリハリをつけ、また、学生たちに参加意識、役割意識を惹起する試みについて、参加者間でも体験、アイデアを出し合いたい。

〇〇〇 北陸地区国立3大学共同開講科目「北陸学総論」の2010年度授業内容

および検討課題について 〇〇〇

本センターでは、教養教育のカリキュラムについて研究調査とそれにもとづく検討および提言を行い、また総合科目を中心に必要な共通教育科目を開発・企画しているが、その科目の一つとして「北陸学総論」がある。当該科目は、数次の学習会での検討を踏まえ、2007年度より、北陸地区の国立3大学(金沢大学・富山大学・福井大学)が連携し、共同で(後期)開講しており、また各大学の教室を双方向遠隔授業システムで結んで授業を進めているという点でも特徴のある科目となっている。

授業は、北陸の地域に関わる歴史、文学、産業、地学(質)、生態系などの自然環境について多様な側面を紹介することを主題に、複数の教員により、北陸の文化と自然についてそれぞれの切り口で地域の独自性、特殊性を明らかにすることが大きな目標となる。そして、受講生が北陸という地域を再認識あるいはより深く考えるための視点を養うことをねらっている。

4年目を迎え、授業内容のコアとなるものがより明確になり、さらに教員の間でも内容の関連性に十分に配慮した授業を展開するなどいろいろな意味で成熟してきたと感じるが、課題もいくつか生まれている。さる9月6日(月)(総合教育2号館D10教室および各大学遠隔教室)に、関係者が参加して事前の打ち合わせを行ったが、そこでの議論の内容の一部を述べておきたい。

まず、授業形態がどちらかというと講義中心になってしまっていること、そのため教員と受講生の間の双方向の議論が思うように進んでいないとの指摘があった。各教員が提示した知見・材料をもとに、それらの間にいかなる関連があるかを、受講生が自分なりに考察することは楽しく刺激的で、さらに一歩進んで受講生同士(分野さらに大学を超えて幅広く)や教員と対話を行っていくことを、当然当該科目でも期待しているわけで、勿体無いと思う。

次に、当該科目の設定当時と比べると、カバーする専門領域が限定されてきて、「多様な側面から北陸を知る、理解する」という趣旨から少し離れてきているのでは、という指摘がなされた。各大学の固有の事情（北陸というキーワードに関わって研究を行い、授業を担当できる教員の確保が少々困難）もあると思われるが、当該科目の魅力をより高め、様々なバックグラウンドを持つ3大学の受講生の関心を引くように、早急に改善する必要があるだろう。

上記のこととも関連するが、遠隔授業システムというハード面の特性から、授業を進行するにあたって、教員の所属する大学の教室で目前にいる学生には留意できても、受信大学側の学生の様子があまり分からないために（教室内での教員の立ち位置や受講生の配置も影響するのだろうが）、互いに隔絶した感覚を有しやすくなることも否定できない。しかし、遠隔システムによらない通常の教室での授業においても同様の問題は抱えている。

つまり、当該科目の趣旨とその特性（良さ）を活かした上で、こうした状況を解決するために、最適な授業形態を模索する時期が来ているとみるべきなのかもしれない。有為なテーマを立ててディスカッションの機会（週・時間）をもっと設定するとか、テーマによっては実習形式を取り込む、あるいは当該科目では、2大学の教員および受講生にも本学のLMS（アカンサス・ポータル）を活用してもらっているが、他のツール（例えばツイッターや携帯電話など）も効果的に取り込む、など様々な工夫を行い、双方向・多方向の議論を促す環境を醸成していく必要があるように思う。

いずれにしても、関係者間でさらなる議論と情報共有がなされなければならない。

（文責 評価システム研究部門 渡辺達雄）

〇〇〇 センタースタッフの研究成果公開活動記録（2010年8月） 〇〇〇

教育支援システム研究部門

- ・青野 透 「聴覚障害に対する理解」『文部科学教育通信』249号（ジアース教育新社、2010年8月9日発行）32-33頁。
- ・青野 透 「教育情報公表義務化と障害学生支援」『学校法人』33巻5号（学校経理研究会、2010年8月10日発行）8-15頁。
- ・青野 透 8月2日 平成22年度京都府立高等学校進路指導研究協議会 第1回研修会にて「大学の教育情報公表義務化について—高校の進路指導に対する期待」と題して講演。
- ・青野 透 8月8日 PCカンファレンス2010（東北大学）において「学習動機を高めるためのクリッカー活用法—授業改善の1つの試み」と題して口頭発表。
- ・青野 透 8月26日 教育システム情報学会第35回全国大会（北海道大学）において「教養科目におけるポータル会議室を活用したグループワークによる学習動機付けの試み」と題して口頭発表。

※7月分補遺

- ・青野 透 7月30日 第42回日本医学教育学会（東京、都市センターホテル）において「『生命・医療倫理』授業におけるクリッカーとポータル活用による考えさせる授業と学習動機付け」と題して口頭発表。
- ・山田政寛 8月5日 外国語教育メディア学会 50周年記念全国研究大会全体シンポジウム「若手研究者が語るメディアと外国語教育の新たな共生の姿」パネリスト
- ・山田政寛 8月28日 社会的存在感に基づいた協調学習支援システム構築の試み、教育システム情報学会第35回全国大会にて発表。講演論文集 471-472頁